

人口の動き

人口	4,049 人
世帯数	957 世帯
出生	3 人
死亡	3 人
転入	28 人
転出	28 人

(4月末住民登録人口から)

ひがし しらかわ 広報

才152号

発行

東白川村役場総務課

岐阜県加茂郡東白川村

TEL (東白川) 1番

印刷

中部印刷株式会社

昭和47年6月10日発行

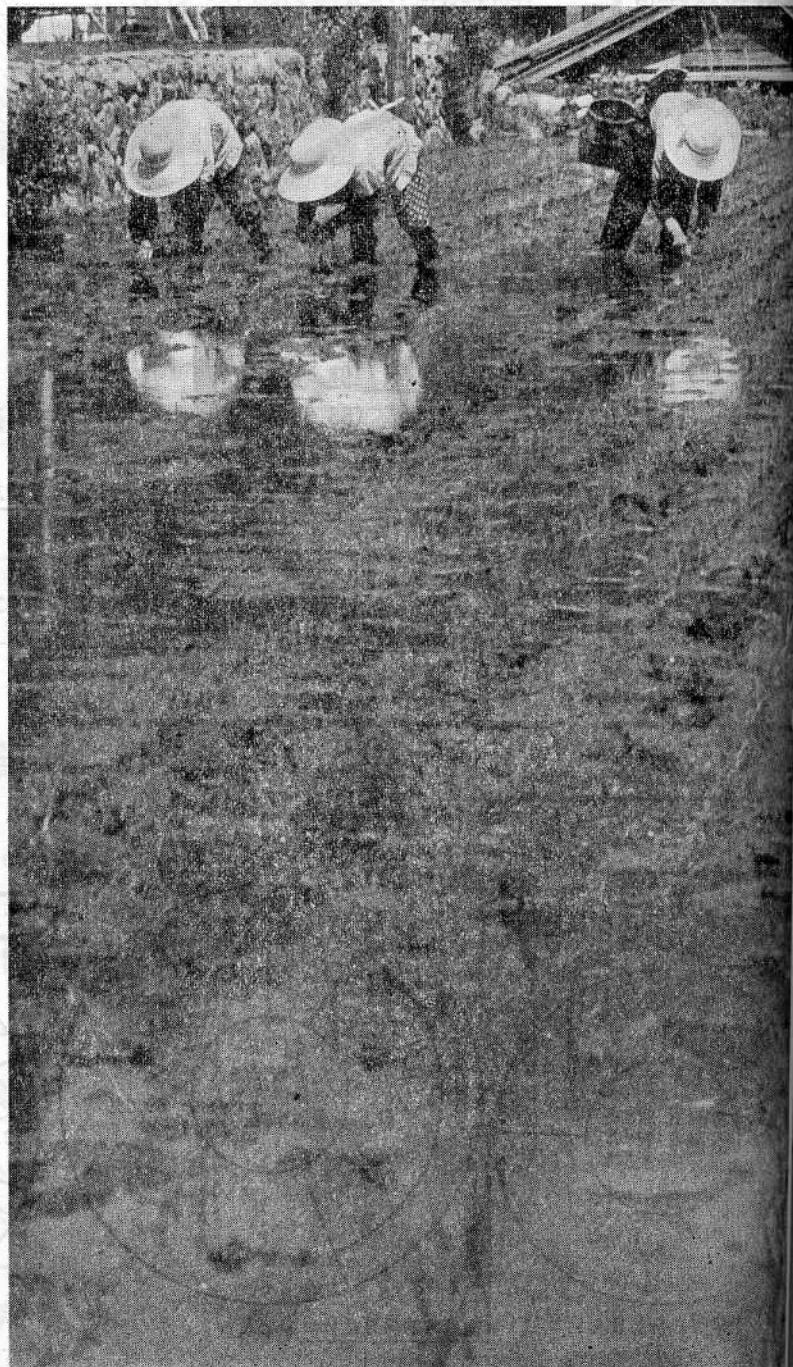
田植え

たけなわ

一株一株に豊かな実りを託しての
田植……。

恵まれた自然環境と、心をこめた
手入れによって、
よりうまい米を作る
努力が続きます。

——五加柏本地内でスナップ

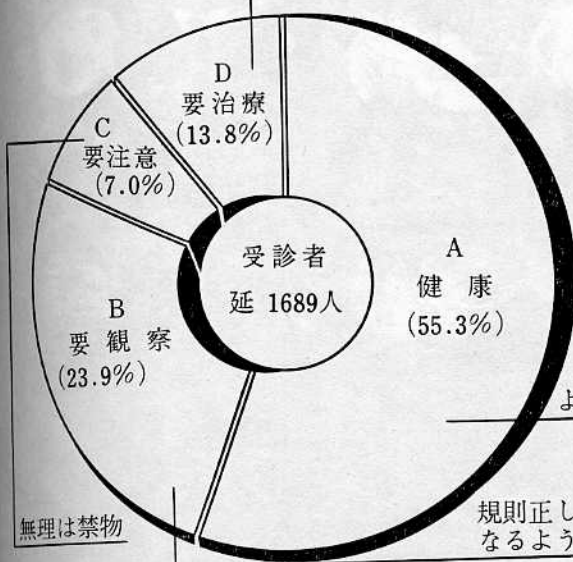


あなたはどの位置に

目で見える成人病検診の結果

総合結果

医師の指示をよく守り、早くC・BからAになるよう努力を



年にいちどの私たちのからだの総点検ともいうべき、成人病昭和四十六年度の結果がまとまりました。

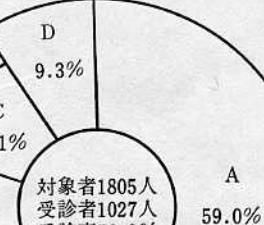
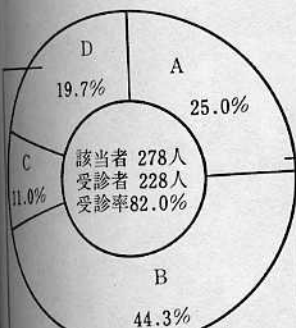
この総合結果でみると、受検した人の四五パーセントが何らかの障害があることがわかり、意外に健康な人の少ないのに驚かされます。

今月号は、目で見える成人病検診の結果として特集しました。

受検された人は、自分がどこに位置しているのか確かめ、受けなかった人は、このように健康に見えても意外に障害のある人の多いことから、今いちど自分の健康を考え、この次の検診を受けるようにしてください。

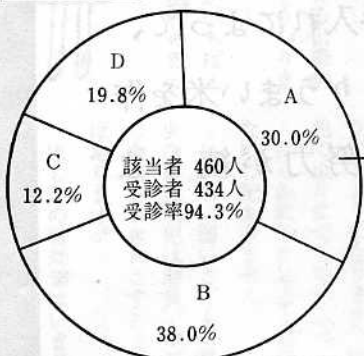
予防検診

精密検査

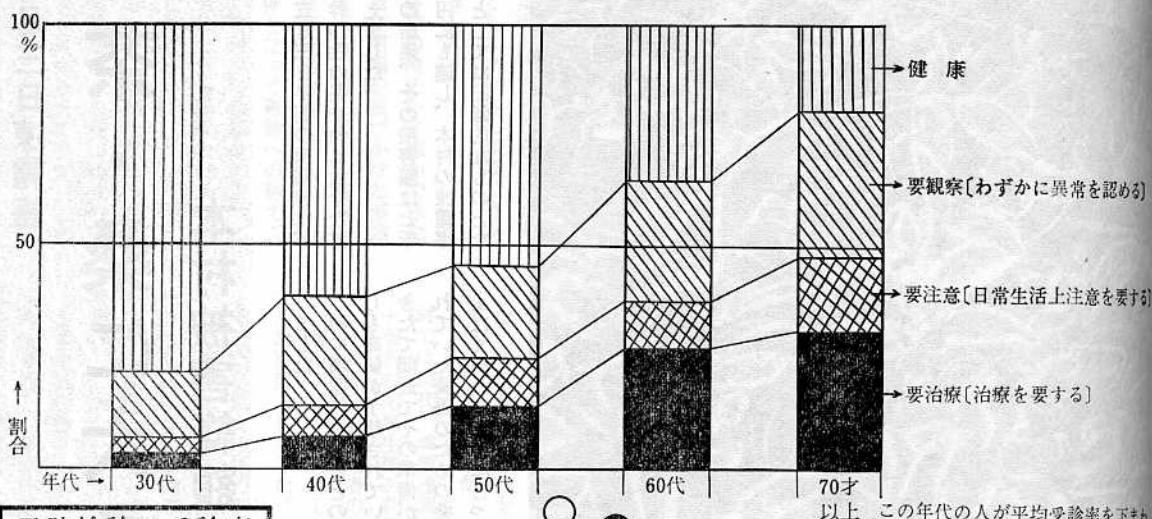


管理検診

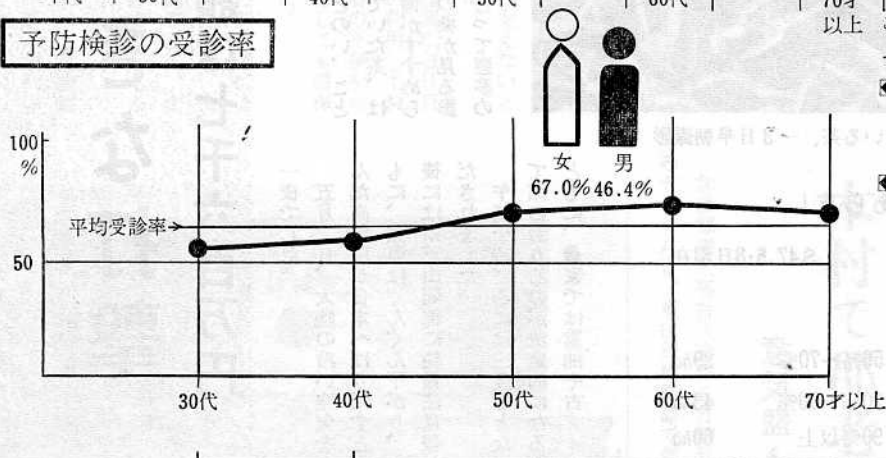
S45年度で要観察「要注意」の人



年代別健康度



予防検診の受診率



この年代の人が平均受診率を下回っていることは残念です。

◆ 自分は健康だと思っている人
ほんとうに健康かどうか、予防検診で確かめてください。

◆ 忙しくて検診に行くひまがないといわれる人
老後を、脳溢血などで「何10年もねたきりになるかもしれない」と思ってください。予防検診の1日をおろそかにできないはずです。

ここの成人病 検診の計画

ここのあなたの健康度は

成人病精密検診

成人病予防検診で何らかの異常があった人は
もっとくわしく検査をうけてください。

とき 昭和47年10月～11月
ところ 東白川病院

成人病予防検診 (ふるいわけ)

昨年健康だといわれた人
健康だと思って受けなかった人も異常がない
かどうか確かめてください。

とき 8月4日、5日、6日
ところ 村内8会場

成人病管理検診

昨年要注意 要観察の人はどうなったのか、生活、食生活の注意がまもられたのかどうか健康度を確かめてください。

とき 昭和47年12月～48年2月
ところ 東白川病院

五月三日凍霜害

茶・桑に大きな打撃

本村被害総額は七千六百万円

さる五月三日早朝の凍霜害は、本村基幹作物の茶や桑に大きな打撃を与えました。

調査の結果、その被害額は七千六百万円にも達し、本村の凍霜害の被害としては記録的なものとなりました。

りました。

特に増産体制もとのい、こしも高値が予想されていた茶、はきたて間近でその準備がすめられていた養蚕のための桑が見る影もなく枯れ、農家にとって悪夢の

一夜でした。

五月二日、大陸の冷い空気を含んだ高気圧が日本へはりだすとともに、気温はぐんぐん下がり、午後には県下山間部に晩霜注意報がだされました。

午後十時ごろには三度Cとなつて霜のおりるのが決定的になるとともに、農家では重油や古タイヤ

など燃やすなどして対策にのりだしました。

しかし、翌朝午前四時、最低気温はマイナス二・一度Cを記録、霜はもちろん、霜柱も発生するほどの冷えこみによって、必死の対策もむなしく最悪の結果となったものです。

日光があたり、気温が上昇するとともに、伸びかけていた新芽はみるみるうちに黒く変色、時間の経過とともにその被害の大きさにぼう然とするばかりでした。

村や議会ではさっそく被害調査や、対策にのりだし、この凍霜害が県下全般におよぶところから、国や県への援助を強力に要請して

います。

しかし茶や桑は、被害を受けたとはいえその後の管理いかんによつて、減収はまぬがれないにしても摘採期が遅れるだけで、全滅とはならない点が救いといえます。

その後、農業振興係や普及員などが中心となって樹勢回復のための指導が積極的に行なわれた結果茶の遅れは二十日前後、養蚕は十五日前後の遅れにとどまり、被害を最小限にとどめることができそうです。

今後、減収に対しての補助、こうした凍霜害に対する恒久的な施設整備のための援助などが具体化される見通しです。



↑ 霜で白くなっている茶、— 3日早朝撮影

凍霜害被害のあらまし

S47.5.8日現在

(茶) 作付面積 132ha

被害割合 (一番茶)	50%~70%	29ha
	70%~90%	43ha
	90%以上	60ha
計		132ha

被害減収量	174t
被害金額	52,200,000円
	(174,000kg×300円)

(桑) 作付面積 66ha

被害割合 (春蚕)	30%~50%	13ha
	50%~70%	10ha
	70%~90%	5ha
	90%以上	38ha
計		66ha

桑皆無面積換算 532ha

減収量換算	21,300kg (10a当40kg)
被害金額	23,430,000円
	(21,300kg×1,100円)

(その他)

ばれいしよ 92,500円

被害金額合計 75,922,500円

車掌不足にも悩む路線バス

応援にママさん車掌

通学通園ダイヤ確保に役

車掌不足で悩んでいた濃飛バスに、さる五月十五日から本村からの応援としてママさん車掌二名が登場しました。

赤字路線の廃止が存続かで私たちに深刻な問題を投げかけた濃飛バスでは、その後一部の路線廃止や運休など経営合理化が進められ、労使一体となって再建への努力、国や県、町村からの援助によってどうにか私たちの地域のバスは存続されてきました。

しかし今度は深刻な車掌不足となり、未改良部分の多い現在の道路ではワンマン化もできず、このままでは運休もやむをえない状態となりました。

特に白川営業所管内が最も不足し、必要人員十五名に対し専任車掌はたったの二名、ほかに臨時一名と白川町からの応援車掌三名を加えても六名にすぎず、必要人員の半数にも満たない現状です。

したがって所長や管理職、運転手による車掌代務によってどうにか運行されてきましたが、これ以上無理にダイヤを維持することは不可能となったため、村においてさしあたり二名の車掌を確保してほしいと強い要請があり、確保できない場合運休もやむをえないとの申し出がありました。

村では現在、通学通園に毎日百五十余名の児童生徒が利用しており、その他一般利用者の不便を考え、現行ダイヤは何としても確保するため努力しました。

そのため終点地区の関係者によるバス運行対策委員会を開催、会社からも出席して協議の結果、次のように話し合いがまとまったものです。

まず地域の皆さんにバス路線維持の重要性と、車掌不足の現状を部落集会などで説明して一般への

協力をお願いし、万一確保できない場合は対策委員会が交替でも車掌代務を行ない、バス運行を確保することになりました。

そして主婦の方を対象に協力を呼びかけた結果、児童生徒が安心して通学できるため、地域の皆さま

の協力のおかげで、万が一確保できない場合は対策委員会が交替でも車掌代務を行ない、バス運行を確保することになりました。

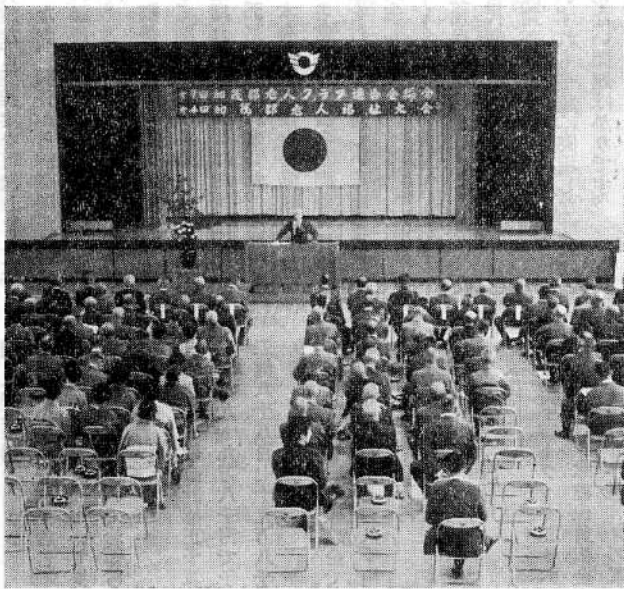
これでバス運休というピンチだけは切り抜けられましたが、村内皆さんにも今後車掌確保の協力と

本村で郡老人福祉大会

意気盛んにクラブ活動の討議

加茂郡老人福祉大会が五月晴れの五月十八日、東白川体育館で郡

内老人クラブの代表百五十名が集まって開かれました。



↑ 熱心に討議が続けられる大会のひとつ

加茂郡には九十四の老人クラブがあり、会員も六千九百人と活発に活動が続けています。

老人は今までの社会的経験を生かしてまだ社会のために働けるのだ、若い者には負けていられないと活動を通じて健康に留意し、時代に遅れないよう学んで豊かな老後を過ごそうとこの大会が開かれたものです。

大会は若い者に負けず意気盛んに進められましたが、この席上本村の金尾秀之介さん、安江繁一さんのふたりが、老人クラブ活動推進の功績により、また神土の老人クラブ清潔会が優良老人クラブとして、それぞれ加茂郡老人クラブ連合会長から表彰されました。

終わりに名古屋女子大学の前身である名古屋女学校の卒業生である愛知県内海町の管性山大宝寺住職、雲輪瑞法尼の「老後のしあわせ」と題しての講演を聞いてこの大会の幕を閉じました。

議 会 だ よ り

(23)

才二回臨時会

正・副議長を改選

大口橋かけ替え工事も決定

五月二十二日、第二回臨時会を開き、昭和四十七年度一般会計補

第二回臨時会において選挙の結果、議長、副議長の重責を負うことになり



議長 今井兼一氏

「話し合いの政治」こそ希望の実現と自治発展の要因であると確信しています。
先輩諸兄の限らない研究努力の結果、現在のこの村の発展をみたわけですが、当面する村の問題は山積しています。

公正・円満な議会運営を

議長 今井兼一

本年度は、政治経済、社会の全般にわたって波乱の多い年といわれています。この重大な年を迎えて、もとより浅学非才な者ですが、就任した以上は、この伝統ある議会のため村民の代表である議員諸氏の意志を尊重し、あくまでも公正に、しかも円満のうちに議会運営ができるよう、及ばずながら誠心誠意努力を惜しませんでした。

白川加子線改良促進
村内道路改良、舗装
有線放送電話施設建設
大口橋の永久化
総合グラウンド建設
教育関係施設整備
通称バス対策

実施など五議案を可決しました。
なお、議長から辞職願が提出され議長、副議長選挙を行ないました。

議長には田口庄之助氏の後任として副議長の今井兼一氏(58)が選ばれ、副議長には村雲一男氏(55)が選ばれました。

本会議終了後全員協議会において各常任委員会の正副委員長の改選を行ない、新しい正副委員長が誕生しました。

五加保育所建設

宮代簡易給水施設建設

凍霜害対策

いずれも早急に実現しなければならぬ問題ばかりです。

これらの事業推進に村民が一致協力して一日も早く完成させると同時に、未来に夢をもてる明るい

村の建設に努力したいものです。

議会は、村民の

意見が代弁される場であければなりません。みんな

話し合い、理解し、納得したうえで議決されなければならないと思います。住民の考えを議会活動に反映させていかなければならないことを考えるとき、今後ともみなさんの声が一層議会に届くことを念願し、こいさつといたします。

■ 本会議

現金出納検査結果報告、村長の専決処分報告につづいて提出された主な議案についてお知らせします。

▽47年度一般会計補正予算
総額九十九万八千円で予算総額二億八千八百七十九万八千円となりました。

財源は46年度の繰越金で

(総務費) 四十七万八千円

(消防費) 十八万円

(教育費) 三十万円

(諸支出金) 四万円です。

支出は

小型中古トラック二十六万円

濃飛バス車庫確保負担金十二万

六千円、消防可搬ポンプ車(平、

上親田) 工事費十八万円、給食婦

退職慰労金三十万円などが主なもの

です。

▽東白川村営土地改良事業の施行について

現在の大口橋が古くなってかけ

替えの時期にきており、かねてか

らこれを自動車の通れる永久橋に

改良するよう地元から強く要望さ

れていました。これに答えて村当

局と議会が果行をはじめ、東海農

政局、農林省などへ陳情した結果

いよいよ工事の認可がおりること

になり、村営土地改良事業として

村が行なうことを議会で決定しま

議会短信

五月三日 恒例の成人の山々記念植樹に全議員が参加し、十七名の成人とともに植樹しました。

なお、植樹が終わってから凍霜害による農作物の被害状況を視察しました。

五月八日 大口橋の永久化工事の認可について議長が村長とともに農林省へ陳情しました

五月九日 産業土木常任委員協議会を開き五月三日の凍霜害被害対策について協議しました。

村長から、今年度工事として決定した土木関係工事について次のように報告がありました。

1 白川加子線

イ平バイパス改良(継続)

ロ大沢改良地内舗装

2 林道

イ小峠(大明神側改良)

ロ穴沢(継続開設)

ハ寒陽気(継続開設)

3 村道

イ一〇一線改良(加舎尾

ロ一四四号線改良(日向

4 秒防

イ大沢欠の平谷

ロ向谷(大林の上)

5 大口橋改良工事

五月十二日 農作物凍霜害に対する県への陳情に副議長が参

委員 長	村 雲	委員 長	神 戸	委員 長	高 木	總務 常任 委員 會
副	安 江	副	安 倍	副	今 井	
	尚		時		悟	
	真		夫		史	
	茂		獎		朗	

予防はまず手洗いで

これからが赤痢シーズン

現在、赤痢といってもそれほど恐い伝染病ではないという感じをもっている人が多いようですが、たしかに死亡率は低くなっているものの、それによってこりむる被害は大きいものがあり、自分だけでなく多くの人に迷惑をかけます村では、ここ二、三年発生していませんが油断は禁物です。

赤痢について正しい知識を持ち、ことしも赤痢が発生しないよう、皆さんひとりひとりが心がけてください。

赤痢菌とは



針の孔を100匹1列に並んで通れる。

赤痢菌の大きさ

赤痢菌は、明治三十年わが国の志賀博士によって発見されました。

た。ところがその後いろいろな菌が発見され現在では四群二四型に分類されています。

潜伏期



(潜伏期は2〜7日)

潜伏期間は、年齢栄養状態、飲みこんだ菌の数によって個人差がありますが、だいたい二日から七日です。

病状の経過

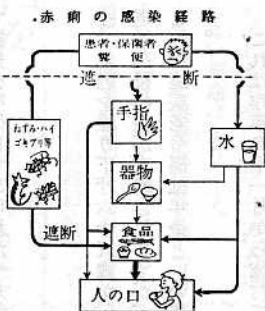
一、悪感がして全身がだるくなり、発熱(三七度〜三九度)してきます。

二、数時間のうちに気持が悪くなり、吐気や嘔吐につづいて腹痛とともに下痢が始まります。

三、下痢、腹痛がだんだん強くなり、便に粘液が混じるようになります。一〜二日後には、血液が混じるようになります。この時期になると赤痢特有のしづり腹という症状が起こり用便後すぐ便意を催し下痢回数は、一日に百回を越えることもあります。

感染経路

赤痢は、患者や保菌者の糞便が口に入らなければ絶対に発病しません。図のような経路をたどって人の口に入ります。そのどこかを遮断することが予防につながります。



赤痢の予防

赤痢は、完全な手洗いを行なうことによりその大部分は防げます私たちの手は、常にいろいろな物とおして細菌で汚れています。したがって主婦は調理する前には必ず手を洗い、また外出後や食事前には必ず手を洗う習慣をつけることがたいせつです。



二、家庭の調理は衛生的に

三、生水、生ものに注意特に生水は飲まない習慣をつけること。

四、下痢したらず赤痢と思え最近の赤痢は典型的な病状を示すものより、むしろ軽い下痢程度で経過するものが多いので下痢したらまず赤痢と疑い、直ちにクレンジール等により便所消毒をして、すぐ医師にかかることがたいせつです。

◎特に小さな子供がいる家庭では注意すべきです。同じ赤痢菌によつて発病する疫痢は、一〜五歳ぐらいの子どもがかかりやすく赤痢とは全く別の症状をおこし、死亡率も三〇％と赤痢に比較して非常に高くなります。



腹痛のときはすぐお医者さんへ

人の動きあれこれ



誕生おめでとーございませう

(五月)

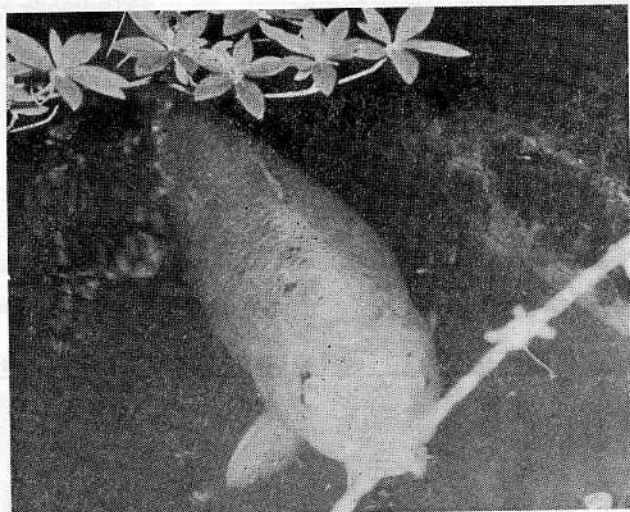
加倉尾 安江 勇 朗男
加倉尾 萬代子 長男
新田 久 長女
とし子 長女
村雲守雄 幸女
房枝 長女



いつまでもおしあわせに

(五月)

大野 芳明 (本巣郡)
村雲美知子 (日向)
樋口 新祐 (西洞)
安江美和子 (上親田)
安江 正彦 (西洞)
栗本 貞子 (平)
安江 和広 (西洞)
後藤 久子 (岐阜市)
阿田 郁雄 (曲坂)
阿田 則子 (大明神)



越原家の古り鯉

花子さんから贈物

恵まれない人や保育園へ

先月、越原家の古り鯉が、名古屋女子大学の学長である越原公明さんから実家の花子の池のそばへ、愛鯉を通じて愛の社会をと箱を設けて見物にこられたかたがたから喜捨していただいた浄財を、昨年に引き続き寄せられたものです。

村ではこのご厚意をありがたうお受けし、恵まれないかたがたのために一万二千八百円を、越原保育園の備品購入費として一万一千七百元を使わせていただきました。

古り鯉花子さんは当年二百一十二歳となっております。最近ではテレビなどでも紹介され、毎日のように見物客が訪れています。

しかし、昨今心ない人によって池が荒らされ、といった不祥事もあり、留守中の越原さんも心配されています。

初めての給料で傘五十本

ふるさとの保育園へうれしい寄付

この春、学窓生活を終え一社会人として汗水流して働いて、始めてもらった給料で、こども用の傘五十本を買って保育園へ寄付してくれたひとがいます。

この心あたたまる善行の主は、本村神土出身のA子さん（本人の希望により匿名）です。

Aさんは、東白川中学校を卒業後高校へ進学、この四月社会人として県内のある会社に就職しました。

そして、初めて自分自身が汗水流してもらった給料を何か有意義

開眼費用を補助

村が老人性白内障に

村では今年度から、老人性白内障にかかっているお年寄りのために、開眼手術に必要な経費を補助することになりました。

支給の対象者は、原則として所得税を課されていない世帯の六十

貴重な村の文化財としてよりたいていせつにするとともに、こうしたい

やるようにしたいものです。↑ 老いてますます元気な花子

に使いたいと考えた末、出身地である神土の保育園児が、不時の雨でも安心して安全に帰れるための黄色い傘五十本を購入、両親を通じて役場へ届けられたものです。

係では、この厚意をお受けしてさっそく東白川保育園の常備用の傘として使わせていただくよう手配しました。

とかく若い世代の行動や、浪費が社会問題となっているなかでこの心あたたまる行為は、いっぶくの清涼剤として、うれしいニュースとしてお知らせします。

五歳以上で、老人性白内障にかかっている開眼手術の可能な者です。

支給する経費の範囲は、診療費（自己負担に当たる額）、特殊眼鏡代、付添い看護料、移送費で、村の規則で定める限度額まで補助します。

くわしくは、係までおたずねください。

けいじばん

（五月）

服田 守彦 （平）

野村 一男 （久須見）

安江 暢吉 （平）

■住宅改良融資の申し込みを受け付中です

住宅金融公庫では、昭和四十七年度の住宅改良融資の申し込み受け付けを行なっています。（申し込み要領）

―受け付け期間

六月一日から十一月三十日まで。ただし、予定戸数に達したときは申し込みを締切る。

―受け付け場所

もよりの「住宅金融公庫業務取扱店」と表示した金融機関。

―主な融資の条件

イ 自分で住むための持家を改良する。かた。

ロ 増築、改築、修繕などの工事または、これらを合わせて行なう工事。

ハ 融資の限度は、工事費の七割以内の額で十万円から五十五万円まで。

ニ 利率は年六パーセント

ホ 返済期間は十年以内

―選定方法 選考による。

―融資計画 戸数―四万八千戸

金額―百四十九億円（全国で）



申しあげます

第十七回成年記念植樹祭

植樹を通じておとなの自覚を

夢託してひのき苗二千本を植える

晴天に恵まれた五月三日、役場裏第一成人の山で恒例の成年記念植樹祭が行なわれました。

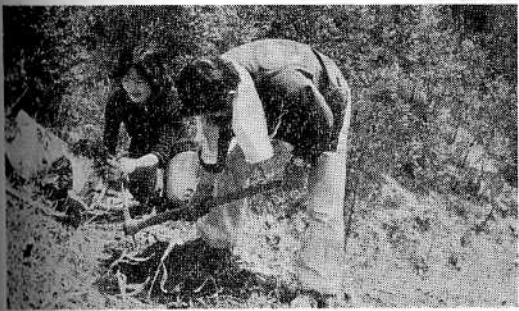
この植樹祭もこととして十七回を数え、植樹を通しておとなの自覚を持ち、山を愛する気持、ひいては郷土愛を育てようとする目的はことしも受け継がれたのです。

ことしの参加者は成人者十七名と、それを祝って村内各階層から

の五十名の人たちで、六十アールの山にひのき苗二千本を植え付けました。

なお、この植樹地は、前村長の河田勘市さんの寄付金で購入したもので、山の好きな河田さんの意志にそって、りっぱな林となることが期待されます。

隣りには第一回からの植樹地があり、もうすばらしい林となつて



日本 脳炎

日本脳炎はその名の通り、ほとんど日本にしかない伝染病のひとつです。

日本脳炎はこれからの七月から十月にかけて多くなり、そのうちで意外なことに九月にいちばんかかる人が多いです。

かかり易いのは、他の伝染病のように体力、病氣に対する抵抗力の少ないことも、お年寄りです。

日本脳炎はビールスによる伝染病で、ご承知のように蚊によって人のからだに移されます。

夏に日本脳炎の発生が多いのは蚊がでる季節で、とくに気温が二十六度をこすと日本脳炎のビールスが蚊の唾液腺で活発になるからです。蚊がでても、暑くなければ心配ありません。

植える人たちにとって、夢と期待は倍増したようです。

植樹が終わると、これも恒例となった婦人会の人たち手づくりのおにぎりで昼食をとり、意義ある一日を終わりました。

上 この一本に夢託しての植樹
下 植樹前の式で誓いのことばの朗読

よう。蚊の血の中にいる、あるいは豚の血の中で冬を越すのではなにかといわれています。

日本脳炎の流行の恐れは、豚の血清中のビールスを調べればわかり、その警報は新聞にのりますので注意していただきます。

抵抗力、体力がおとろえないよう栄養のある物をバランスよく食べる。

夏バテしないように蚊がでないようにお互いに家のまわりのどぶ、水たまりをなくす。

蚊にさされない。とくに暑い時期に。

伝染病の巻 ②

不顕性感染といって多くの人が日本脳炎にかかっても、それが発病するのを防ぐのは、その人その人の体力が関係します。

特効薬がなく発病すれば死亡率が高く、死は免れても重い後遺症を残すことが多くあります。

この恐ろしい日本脳炎を防ぐにはどうすればよいのでしょうか。

■ ことも、お年寄り、からだの弱い人病氣にかかり易い人は予防接種をうけておく。

■ 抵抗力、体力がおとろえないよう栄養のある物をバランスよく食べる。

■ 夏バテしないように蚊がでないようにお互いに家のまわりのどぶ、水たまりをなくす。

■ 蚊にさされない。とくに暑い時期に。

日本脳炎はコガタアカイエ蚊によつてしか移されないものですが村でも以前に日本脳炎が発生しています。その教訓を生かして、この恐ろしい日本脳炎を二度と出さないようにしましょう。



■ 東白川をグラフと写真でまとめた村勢要覧をいま作成中で、広報の発行が遅れました。この要覧はこんどから村内全世帯へお配りする予定です。が、広報を含めご意見をお寄せください。

■ 五月に前年度県広報コンクールの表彰式が行なわれ、本村は広報組写真の部に特選、一枚写真と広報紙の部に入選し表彰を受けました。これも皆さんのご協力と、ご声援のおかげです。

■ 近日中に、三月中学校を卒業した人たちにふるさとの便りとして広報紙を送る予定です。